すわみつえ通信

No.３２７　２０２４年８月１９日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪　三津枝

連絡先　鴻巣市赤見台3-2-7
TEL：596-9440 FAX：507-4151
携帯：080-5039-2785
E-mail：mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで　すわみつえ

身近な議員として　もっと届けたい声がある　声をかたちに

旧笠原小学校で「制服・浴衣撮影会」？

７月２５日、市民の方から「近代麻雀学園が旧笠原小学校で『制服・浴衣撮影会』をするとX（旧ツイッター）で発信している」と共産党市議団に連絡がありました。

８月13日（火）から８月15日（木）までの開催予定で「本物の学校を全面貸し切り。最強のロケーションで」という触れ込みで、若い女性の制服・浴衣姿の写真撮影会のチケット販売が案内されていました。「近代麻雀学園」は昨年、県営公園で「水着撮影会」を企画し、わいせつなポーズだと指摘された事業者です。

旧笠原小学校校庭に設営された屋台

８月２日　地域住民・女性団体・市議有志で市と懇談

旧笠原小学校の管理は市役所・資産管理課が行っています。担当者に貸し出し許可をした経緯と撮影会イベント内容の説明を求め懇談しました。市の担当者は5月21日に利用申請があり、水着撮影会で問題があった事業者であることを知っていたが、水着ではなく制服を着用すること、また、誓約書を提出してもらい違反行為があれば、直ちに止めさせることで許可したとの説明でした。「近代麻雀学園」は、立川市・旧多摩川小学校で今年1月5日・6日に同様の撮影会を実施しましたが、その後は市民の反対があり開催されませんでした。

８月13日～８月15日　述べ1000人を超える人が撮影会に

当日、撮影者は、専用シャトルバスに乗り込み、旧笠原小学校へ列をなして入りました。地域の自治会長と住民、市議有志で３日間通して、会場内を見回りました。教室、体育館、音楽室、図書室で撮影者に求められたポーズをする若い女性。

モデルのスカートは短いながら過激なポーズでなかったことは確かです。ただ、モデルの中には14歳の少女も、AV女優もいるということが、大変、気になりました。

埼玉県男女共同参画の視点から考える表現ガイドより

ガイドには「女性の性的あるいは外見的な側面を強調して表現することは、女性の尊厳を傷つけ、性を商品化することにつながります。」とあります。

男女共同参画・ジェンダーの視点から今回のイベントをみると、会場は子どもたちの学びの場・地域の方々のコミュニティの場であり、適切な利用ではないと思います。地域の方々は何が行われているのか全く知らされていませんでした。市から地域に知らせるよう言われ、イベント開催チラシを用意した事業者が配布したのは、旧笠原小学校周辺のわずか6軒だけでした。旧笠原小学校の跡地の利活用にふさわしいか9月議会で質します。

【俳句コーナー】

敗戦忌未来へ繋がんこの平和

瑠璃子

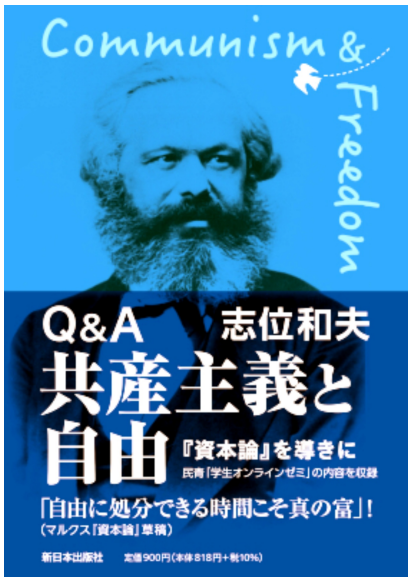
79回目の終戦記念日を迎えて

８月１５日の終戦記念日の午前中、川里地域～大間～宮前～箕田～吹上地域～赤見台を宣伝カーで回り、国内外の世論と反戦運動に連帯し、憲法９条を守り抜き、大軍拡をやめさせるために力をつくしますと訴えました。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

（月）吹上駅南口　（火）北鴻巣駅東口　（水）北鴻巣駅西口　（木）吹上駅北口　（金）鴻巣駅西口

慶応大学名誉教授（憲法学者）の小林節氏「目から鱗が落ちた」
『Q＆A共産主義と自由ー「資本論」を導きに』に反響



小林節慶応大学名誉教授

日本共産党の志位和夫議長の新著『Q＆A共産主義と自由ー「資本論」を導きに（新日本出版社）』が反響を呼んでいます。「読んで、目から鱗（うろこ）が落ちた」と語るのは憲法学者の小林節慶応大学名誉教授。日刊ゲンダイで連載している「ここがおかしい　小林節が斬る！」（8月6日）で同著を紹介しています。

小林氏は、中国やソ連の影響から「共産主義」には「自由と民主主義がない」との「理解」もある中で、「日本共産党も独裁的な政権を目指す政党だと見る人は多い」と指摘。一方で、10年ほど前に、安倍政権の憲法無視の政策強行とたたかう中で、「志位委員長（＝当時、現議長）と接する機会を得た私は、『話せば分かる』氏の人柄と知性に接して、まず、共産党に対する偏見を解くことができた」と語っています。

その上で、同著は「資本主義の現状（貧富の格差・自由の喪失と環境の破壊＝生きづらい人生）を克服する方法がマルクスの慧眼（けいがん）の中にあると解き明かしている」と紹介。高度に発達した資本主義を土台にした社会変革の道筋が示されていることに触れ、「現在の政治の限界を突破して、真に自由で民主的な国家生活を実現できると、マルクスの原典を根拠に、志位氏は明快に説明してくれている」と評しています。

また、遅れた出発点から革命を断行したソ連と中国が、自由と人権が抑圧された国家になったことは理解できるとしつつ、「その両国の共産党とは頑固に一線を画してきた『日本』共産党がロシアと中国の現実を根拠に批判されることは理不尽であろう」と強調。「共産党が好きな人も、また、共産党が嫌いな人も、ぜひ、この新著を読んでみることをお勧めする。新しい発見があるはずだ」と締めくくっています。

【しんぶん赤旗　8月7日付】

談話室

▼▽ファンには知られた話しだが、映画「男はつらいよ」には前身となったテレビドラマがある。1968（昭和43）年から放送され、好評を博していた。ただ最終回の結末に対し、テレビ局に抗議の電話、手紙が殺到する。

▼▽寅さんがハブにかまれて中毒死したからだ。「なぜ寅を殺した」。わがことのように怒る人々の言葉を聞いた山田洋次監督は驚き、喜んだという。「そんなにも寅さんが愛されていたなんて」。そして映画化が決まった。視聴者の批判が後の国民的名作を生んだと言えよう。

▼▽翻ってパリ五輪では人を傷つけるだけの醜い言葉が問題となった。選手や審判に対するSNS上の誹謗（ひぼう）中傷だ。日本バレーボール協会の川合俊一会長は自制を求めて声明を出している。「愛やリスペクトがあるメッセージなら、たとえそれが批判であっても歓迎する」とも。

▼▽日本選手団は侮辱や脅迫などに対し法的措置を検討すると表明した。投稿者のモラルに呼びかけるだけでは済まない段階にある。SNS運営者とスポーツ界全体で対策を急ぐべきだろう。ネット上の心ない言葉が“毒”となり、人の命を奪うことが現に起きているのだから。　【山形新聞　8月13日付】